

らぶらす

ライブラリーニュース Vol.35



パートナーシップ、ファミリーシップ

東京2020オリンピック・パラリンピックは1年の延期を経て、2021年に開催されました。開催前から予想されていた通り、今大会では性的マイノリティを公表する選手が過去最多となりました。選手個人が公表したり、パートナーや家族がともに紹介されるなど、性の多様性が広く周知される機会になりました。日本でも、パートナーだけでなく子どもも家族であると証明するファミリーシップ制度が導入され始めています。世田谷区では2015年から、「世田谷区パートナーシップの宣誓の取扱いに関する要綱」に基づき同性パートナーシップ宣誓書を受領する取組みが始まり、2021年8月31日現在通算164組が制度を利用しています。らぶらすでは2015年度、区企画協働事業からセクシュアル・マイノリティのための居場所づくりがスタートしました。今号はパートナーシップ制度がはじまりからわかる図書を集めています。

『同性パートナーシップ証明、はじまりました。』

エスムラダ／KIRA 著
ポット出版



2015年11月5日、渋谷区と世田谷区で同日始まったパートナーシップ制度。両区がそれぞれ異なる手法で制度を整えた経緯とともに、世田谷DPRIによる要望書や「諸

外国の同性婚制度等の動向」を掲載し、パートナーシップ制度の現状を示した。

『「LGBT」差別禁止の法制度って何だろう？』

LGBT法連合会 編
かもがわ出版



性的指向および性自認を理由とする差別を禁止する法案として日本で初めて発表された市民案と、当事者の直面している「困難リスト」を掲載。法整備の意義や社会的背景

のほか、世田谷区を含め、地方自治体の先進的な取り組みを多数紹介する。

『同性婚 だれもが自由に結婚する権利』

同性婚人権救済弁護団 編
明石書店



同性婚の問題を、同性愛者・両性愛者だけの問題とせず、多様性が肯定される社会は誰にとっても生きやすい社会であるという立場から取り上げている。公人による

同性愛者に対する差別的発言などにみられる同性愛嫌悪の背景も詳しく解説。

パートナーシップ、ファミリーシップ関連図書・資料



『同性パートナーシップ制度』
棚村政行／中川重徳 著
日本加除出版



『母ふたりで“かぞく”はじめました。』
小野 春 著
講談社



『LGBTと家族のコトバ』
LGBTER
双葉社



『パートナーシップ生活と制度』
杉浦郁子／野宮亜紀／大江千束 編著
緑風出版

お知らせ

「らぶらす」82号が発行されました。



巻頭は世田谷在住のサッカー選手、下山田志帆さんのインタビュー記事です。下山田さんのおすすめ本も掲載されています。



◀らぶらすホームページ(らぶらすの刊行物)

らぶらす資料コーナー（ライブラリー）利用案内

◆らぶらす資料コーナーでは、およそ2万1千冊の書籍やDVD、行政資料などを所蔵しています。◆運転免許証や健康保険証など、住所とお名前の確認できる書類をお持ちいただければ、その場で利用者登録ができます。◆1回につき3点まで、2週間の貸出が可能です(AV資料1週間まで)。◆貸出中の場合は予約ができます。◆図書資料はらぶらすのホームページから検索可能です。

開館時間	9:00-22:00	休館日	毎月第3月曜日(祝日の場合はその翌日)及び年末年始
貸出時間	9:00-21:30		

※開館時間が変更になる場合があります。ホームページ等でご確認ください。



『女性と戦後司法
裁判官、女性がおわかりですか？』
中村 久瑠美 著
論創社

戦後、新憲法下で一番平等の立場であるべき最高裁の裁判教官が、頑張って修習生にまでたどりついた著者を含む女性に浴びせた言葉は「女に裁判はわからない」。裁判は一番の判決が大切であるにも拘らず法律関係者のジェンダーバイアスは広く存在する。しなやかにしたたかに辛抱強くをモットーの作者が「女性に優しい司法」を追求する。



『主婦業9割削減宣言』
唐仁原 けいこ 著
中央公論新社



『激動の中を行く
与謝野晶子
女性論集』
与謝野晶子 著
もろさわようこ 編
新泉社

女性のしごと・生き方



『「男らしさ」はつらいよ』
ロバート・ウェブ 著
双葉社

英国人気コメディアン“ロバート・ウェブ”の少年期からの経験談。社会がいう「男らしさ」についての悩みや考えを当時のTVや映画・曲やバンドの話題などを織り交ぜながら、記憶や思い出・日記などから綴っていく。ジェンダーに関する無意味でくだらない常識や習慣は、あらゆる人に時間の無駄遣いを強いるものだとする。



『ボクは食器洗いを
やっていただけで、
家事をやっ
ていなかった。』
土屋 礼央 著
KADOKAWA



『ダリウスは今日も
生きづらい』
アディープ・
コラーム 著
集英社

男らしさとその周辺



『多様性との対話 ダイバーシティ推進が見えなくするもの』
岩淵 功一 著
青弓社

自治体・教育機関や企業の「ダイバーシティ推進」。組織や社会を豊かにするというメリットを強調し、ブランド戦略としても推奨される。その一方、特定の差異を有した人を特定の目的のために活用することが目指され、制度化された差別が隠蔽されると指摘。LGBT、移民、生活保護受給等を事例に、根源的な差別解消に向けた展望が示される。



『第三の性
「X」への道』
ジェマ・ヒッキー 著
明石書店



『メッセージ
トーベ・ヤンソン
自選短編集』
トーベ・ヤンソン 著
フィルムアート社

多様性について考える

児童書

『ようこそ！あかちゃん』
レイチェル・グリーン 文
クレア・オーウェン 絵
大月書店



イギリス発の性教育絵本。5～7歳の子どもを対象に、科学的に正確な事実をわかりやすく、さらに多様性を意識して伝える。大人の読者も、嘘やごまかしが無い表現に對峙し、自身が刷り込まれた思い込みや偏見に気づく感性が磨かれる。

ビジュアルガイド

『イラストで学ぶジェンダーのはなし』
アイリス・ゴットリーブ 著
フィルムアート社



一口にジェンダーと言っても、自分とは違うひとたちのこと、また自分自身についてもどこまで理解していると言えるのか。ジェンダー表現は幅広く複雑だ。けれど、この抽象的であいまいな概念を、巧みに視覚的に説明するイラストに導かれ、考える第一歩を踏み出せる。

DVD

『この三人』
ウィリアム・ワイラー監督
1936年/アメリカ



寄宿制女子校を共同経営するカレンとマーサは、学生時代からの親友。問題児のメアリーがカレンの婚約者ジョーとマーサに関する悪質な噂を流したことで学校は閉鎖、三人の関係も危うくなり…リリアン・ヘルマンの原作戯曲は映画化に際し、当時の検閲により大幅に脚色された。

